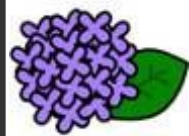


幸福の科学学園建設反対の緊急集会開催！

まち連だより



6月号

住民330人が参加

マスコミも取材

学校法人「幸福の科学学園」が大津市仰木の里に13年開校を計画する関西校について、「建設ストップに向けた緊急の集い」と題した住民集会が6月5日、仰木の里市民センターで開催されました。住民ら約330人が参加しました。

主催したのは、「仰木の里まちづくり連合協議会(略称 まち連)」。建設予定地周辺10自治会が集まり、幸福の科学学園建設をストップし、地域のまちづくりを考えようという趣旨のもと4月に結成されました。

建設予定地は、地滑り危険地帯

集会では、大きく2つのことが報告されました。

① 学校側が、学校設置認可申請を提出した後、反対運動によって、申請を取り下げさせた過去の事例。

幸福の科学学園は、4月、滋賀県に対し学校設置認可を申請し、すでに受理されていますが、これに似た事例として、98年にヤマギシズム

が三重県に学校設置申請後 取り下げたケースがあります。当時の経緯が、反対運動の中心人物であった松本繁世医師からのビデオレターと共に紹介されました。私学審議会により「公聴会」が開催され、その場で、ヤマギシズムやその学校の問題点が次々と明るみにできると、反対の世論が高まり、行政も動き出し、最終的には学校側が認可申請を取り下げました。

② 学園建設予定地が、地すべりの危険性が高い地盤であること。

土木工学の専門家より、土地造成前の航空写真や、周辺地のボーリングデータなどの分析が紹介され、建設予定地は、かつて谷や川であった土地を埋め立ててつくった非常に軟弱な「谷埋め盛土」であることが報告されました。このような地盤は、先の東日本大震災でも甚大な地すべり被害をもたらしたとして、読売新聞・朝日新聞にもとりあげられています。

幸福の科学学園は、地盤の補強・改良を伴う「開発行為」なく、4階建ての大規模な校舎を建てようとしています。これに対して、参加した弁護士からは、①子供たちが通う学校を危険性のある地盤に建設することは、学校設置の観

点からも問題であること、②万が一、このような危険性を抱えたまま大津市が建築確認をおろした場合、住民が一丸となって、「開発審査請求」を提出することも視野にいれるべきであることが、提言されました。

今こそ、住民が団結して意思表示を

顧問弁護士からは、さらに、法律的観点から追及していくのはもちろんのこと、住民の声を広く発信し、世論を形成していくことが、今後の運動にとつて最も重要であるという助言もいただきました。

集会に参加した住民からも、「住民一人一人が意思表示していくときだ」「のぼりをもっと立てるべきだ」といった声がありました。

なお、集会の様子は、当日のびわ湖放送ニュースで放映され、また、翌日の毎日新聞等でも報道されました。

次回学集会のお知らせ

日程:2011年7月10日(日)
場所:北部地域文化センター
大津市堅田2丁目1-11
第1部(10時~予定):「子どもの教育と宗教を考える(仮称)」
第2部(14時半~予定):「幸福の科学とはどういう団体か? その反社会性を考える(仮称)」

まち連緊急記者会見

6月9日、滋賀県庁にて、まち連が「幸福の科学学園の学校建設反対に係る緊急会見」を開き、朝日新聞、読売新聞他新聞7社と、びわ湖放送が参加しました。会見では、幸福の科学学園建設が、住民合意のない中で、一方的に進められようとしている状況をうけて、まち連として、滋賀県知事ならびに大津市長に対し、要望書を提出したことが発表されました。

滋賀県への要望書の要点

- 1) 次の2つの条件が満たされるまで私立学校審議会を開かないことを求める。
 - ・大津市議会の請願採択にもとづく地元の合意が形成されること。
 - ・建設予定地の地盤の安全性を保証するデータが提出されること。
- 2) もし私学審議会を開く場合には以下の2つを求める
 - ・私学審議会として公聴会を開催し専門家の意見を聞く。
 - ・県として設置主体の信用性に対する調査を行う。

(5月31日提出 回答期限6月17日)

大津市への要望の要点

今回の建設計画が開発申請に該当しないことを認めないよう求める。
(6月9日提出 回答期限 6月20日)

幸福の科学の強引な手法。募る住民の不安

幸福の科学学園は、住民の不安に対し「誠意をもって対応する」と繰り返して述べていますが、住民説明会は、一回開かれたきりです。東2丁目に対しては、事前に文書での質問項目の提示を求めているにもかかわらず、「事実と異なる記述がある」「信教の自由を侵害する」などの理由をつけて、2度目の説明会開催を拒

否しています。それにも関わらず、建設を進めるプロセス上必要な「中高層協議」のための説明会は、住民と日程調整することもなく一方的に平日の夜に開催し、住民参加者ゼロのまま、開催済みとの報告を大津市に提出しています。

このような一方的な進め方に関して「やや日刊カルト新聞」(藤倉善郎主筆 ウェブ新聞)に「幸福の科学の住民対策実績と大津市の学園問題」と題した記事が掲載されました。仰木の里以外の地域でも、同様の強引な手法で幸福の科学宗教施設の建設が行われた事例が紹介されています(藤倉氏の了承を得て左に引用します)。

この記事が掲載されるや、ウェブサイトに掲載された、幸福の科学信者又は学校関係者とみられる複数の人物から、住民の個人を特定し、虚偽の中傷をするような書き込みが3日間で4件ありました(藤倉氏により削除済み)。その他にも、反対している住民を脅迫・嘲笑するような内容が延々と続いています(左に一部紹介)。このことにも、我々住民としては、一層警戒心を強くせざるを得ません。

(以下 やや日刊カルト新聞より引用)

滋賀県大津市仰木の里で建設が計画されている幸福の科学学園について、予定地周辺の住民たちが5月28日から建設反対の上りや看板の設置を始めました。(中略)

幸福の科学が施設建設に際して周辺住民の強固な反対にあうのは、これが初めてではありません。(中略) そのひとつが、大川隆法総裁の生誕地である徳島県川島町。「聖地・川島特別支部」(2003年完成)の周辺には、いまだに近隣住民による反対看板が設置されています。「説明会が一度も開かれず、戸別訪問で説明があっただけ」「そのときは休憩所だと説明されたのに、できてみたら完全な宗教施設だった」「小さな町の狭い道路に大型バスで大量の信者がやってくるようになり、狭い道を広がって歩いたりして迷惑だ」(中略)

川島町では、幸福の科学の支部完成後にむしろ住民との対立が深刻化。そのため地元自治会は、地元へ転入してきた川島特別支部の支部長一家の自治会加入を拒否しました。「すると支部長は、自分の子供が地元の運動会などで不利益を被ると主張して、自治会加入に賛成する署名を求めて反対派の主だった住民以外の家を戸別訪問した。それで過半数が賛成したというんです。高齢者も多い土地で、宗教団体に戸別訪問されたら、みんな逆らえない。自治会で反対を検討しているときに、そんな形で勝手に“多数決”を取られたため、自治会は解散しました。その後、支部長側についた自治会関係者が代表となって同じ名前前の自治会を新たに立ち上げ、いまでは幸福の科学の支部長自身が自治会長になっています」(川島町の住民) (中略)

同様のことが仰木の里で行われるようなことがあれば、住民の反感・不信感はいま以上に増すでしょう。他地域のケースは宗教施設ですが、仰木の里で計画されているのは学校です。周辺住民から白眼視されたまま開校された学校に通う生徒たちは、はたして健全な社会性を身につけていくことができるのでしょうか。学校は、宗教施設以上に近隣住民の理解が必要な施設だろうと思います。(略)

(紙面の都合上、一部省略しています。全文は <http://dailycult.blogspot.com/> 参照ください)



仰木の里住宅地に並ぶ建設反対ののぼりと戸別訪問お断りのボード

<上記記事に対する掲示板のコメントの一部>

地元住民の意見など、ひねり潰せば良い。幸福の科学は人類を幸福に導く団体なのだから、学園が創られる事は、日本だけでなく世界全体にとって有益である。それが理解できない地元住民は、一体何なのでしょう? (略)
2011年6月6日0:54

(略) 学園の建設に反対される方は、エル・カンターレの信仰を受け入れなかったわけですから、死後相応の苦しみを味わうことになります。
2011年6月6日10:35

仰木の里の人間どもは、いつまでもピーチクパーチクうるせえな。 いっそ、全ての地元住民を無理やり三帰誓願させたいね。
2011年6月6日15:37

エル・カンターレに対する信仰心を理解できない仰木の里の人間や、幸福の科学を批判する人間たちに、どのように思われようが、知ったことではない。馬鹿を相手にしているほど幸福の科学はヒマじゃないんだよ。
2011年6月7日2:01

<まち連参加自治会> 里東1丁目自治会、里東2丁目自治会、東五丁目自治会、東六丁目自治会、東七丁目自治会、コモンステージ自治会、里南自治会、湖都が丘自治会、北雄琴自治会、里東住民自治会 以上10自治会